

序 文

最近は文化財研究が多様な観点から進められ、過去における人類の活動やそれをとりまく環境について理解が深まってきています。その基礎をなす作業として、出土品をはじめ考古資料が語る「時間・空間」の検討は不可欠なものです。

山内清男博士は、詳細で多くの資料分析を通じて、我が国の考古学のなかでもとりわけ縄文時代の土器編年を確立し、往時における「時間・空間」の理解を可能にした研究者として、その研究業績が高く評価されています。

博士の研究の基盤となった収集資料については、これまで奈良文化財研究所が管理をおこなってまいりました。また、その一部については、全国の研究者の協力のもとに、既に『山内清男考古資料1～17』として刊行してきたところです。

奈良文化財研究所では、これらの成果を継承しつつ、日本考古学の基礎資料として当該資料をさらに積極的に活用することを目的として、近年、再整理の作業を進めてきました。その過程では、本書において紹介する「縄文原体」の資料をはじめ、編年体系の基準資料として使用された有名遺跡の資料の情報が未公開のままであることが明らかとなっていました。そのため、整理の方針および方法を変更した上で、さらに作業を継続しつつ、新たなシリーズとして収蔵資料の公開を進めていくこととしています。

その一環として、本書では、山内博士の研究の基礎として、重要な縄文原体資料に関する報告および復原の成果を取りまとめました。社会における文化財の活用が広がる中、研究のみならず新たな創作など、多様な活動に活かしていただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、連携研究を進めている京都大学をはじめ、多くの研究者の皆様にご協力をいただいたことに深く感謝申し上げますとともに、今後とも多くの方々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所 所長 本 中 真